



Title	鷺田清一名誉教授 研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2011, 42, p. 6-21
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23311
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

鷺田清一名誉教授 研究業績等一覧

【著書】

1	分散する理性——現象学の視線	1989年 4月15日	勁草書房	
2	モードの迷宮	1989年 4月25日	中央公論社	
3	ファッションという装置	1989年 4月25日	河合文化教育研究所	
4	夢のもつれ essais philosophiques	1993年 2月20日	北宋社	
5	最後のモード	1993年11月30日	人文書院	
6	人称と行為	1995年 2月10日	昭和堂	
7	見られることの権利——〈顔〉論	1995年 6月25日	メタローク	
8	ちぐはぐな身体——ファッションって何？	1995年10月25日	筑摩書房	ちくま学芸文庫ワ-5-1
9	モードの迷宮	1996年 1月10日	筑摩書房	
10	だれのための仕事——労働 vs 余暇を超えて	1996年 3月18日	岩波書店	
11	じぶん——この不思議な存在	1996年 7月20日	講談社	
12	メルロ＝ポンティ——可逆性	1997年 7月10日	講談社	
13	ひとはなぜ服を着るのか ——文化装置としてのファッション	1997年10月 1日	NHK 人間大学テキスト	
14	現象学の視線	1997年10月10日	講談社	講談社学術文庫 1302
15	普通をだれも教えてくれない	1998年 7月 5日	潮出版社	
16	悲鳴をあげる身体	1998年11月 4日	PHP 研究所	PHP 新書 058
17	顔の現象学	1998年11月10日	講談社	講談社学術文庫 1353
18	ひとはなぜ服を着るのか	1998年11月20日	日本放送出版協会	
19	「聴く」ことの力——臨床哲学試論	1999年 7月 2日	TBS ブリタニカ	
20	五界彷徨	1999年11月 5日	北宋社	
21	皮膚へ——傷つきやすさについて	1999年11月15日	思潮社	
22	てつがくを着て、まちを歩こう ——ファッション考現学	2000年 4月15日	同朋舎／角川書店	
23	ことばの顔	2000年 9月25日	中央公論新社	
24	まなざしの記憶——だれかの傍らで	2000年12月27日	TBS ブリタニカ	
25	哲学クリニック	2001年 3月 5日	朝日新聞社	
26	〈弱さ〉のちから——ホスピタブルな光景	2001年 9月10日	講談社	
27	「哲学」と「てつがく」のあいだ	2001年10月25日	みすず書房	
28	死なないでいる理由	2002年 5月10日	小学館	
29	時代のきしみ——〈わたし〉と国家のあいだ	2002年 5月25日	TBS ブリタニカ	
30	老いの空白	2003年 6月15日	弘文堂	
31	教養としての「死」を考える	2004年 4月21日	洋泉社	新書 y 108
32	〈想像〉のレッスン	2005年10月31日	NTT 出版	

33	感覚の幽い風景	2006年 7月 1日	紀伊国屋書店	
34	「待つ」ということ	2006年 8月30日	角川学芸出版	角川選書 396
35	京都の平熱——哲学者の都市案内	2007年 3月20日	講談社	
36	思考のエシックス 反・方法主義論	2007年 6月25日	ナカニシヤ出版	
37	シニアのための哲学——時代の忘れもの	2009年 7月 1日	NHK 出版	
38	噛みきれない想い reflexions quotidiennes	2009年 7月10日	角川学芸出版	
39	わかりやすいはわかりにくい? 臨床哲学講座	2008年12月25日	筑摩書房	ちくま新書 832
40	たかが服、されど服	2010年 3月10日	集英社	
41	くじけそうな時の臨床哲学クリニック	2011年 8月10日	筑摩書房	ちくま学芸文庫ワ-5-4
42	「ぐずぐず」の理由	2011年 8月25日	角川学芸出版	角川選書 494
43	新編 だれのための仕事	2011年12月12日	講談社	講談社学術文庫 2087

【編著・共著】

1	交換と所有《現代哲学の冒険》第 10 巻	1990年12月	岩波書店	今村仁司・大澤真幸・樺山紘一・土屋俊氏との共著
2	現象学年報・7	1991年11月	日本現象学会	加藤精司・金田晋・丸山高司氏との共同編集
3	実践哲学の現在	1992年 1 月	世界思想社	青木隆嘉・西谷敬氏との共編著
4	トランスモダンの作法	1992年 6 月	リプロポート	今村仁司・野家啓一・中岡成文・篠原資明氏との共著
5	現象学年報・8	1992年11月	日本現象学会	加藤精司・金田晋・丸山高司氏との共同編集
6	顕わすボディ／隠すボディ POLASEMINARS5	1993年 2 月	ポーラ文化研究所	日高敏隆・深作光貞氏らとの共著
7	マイクロ・エシックス叢書《エチカ》 第 2 巻	1993年 9 月	昭和堂	川本隆史・須藤訓任・水谷雅彦氏との共編著
8	現象学事典	1994年 3 月	弘文堂	木田元・野家啓一・村田純一氏との共編著
9	1945-1995 若者の顔	1995年 7 月	平凡社	金子隆一氏との共同構成（共編著）「別冊太陽」No.90Summer
10	《現代思想の冒険者たち》全 31 巻	1996年 5 月－ 1997年 5 月	講談社	今村仁司・三島憲一・野家啓一氏との共同編集
11	現代思想の源流——マルクス・ニーチェ・フロイト・フッサール今村・三島・野家・鷺田共編《現代思想の冒険者たち》第 00 巻	1996年 5 月	講談社	今村仁司・三島憲一・野家啓一氏との共著
12	叢書《身体と文化》全 3 巻 第 1 巻技術としての身体 第 2 巻コミュニケーションとしての身体	1996年 8 月－ 12月	大修館書店	市川雅・菅原和孝・野村雅一氏との共同編集
13	ファッション学のみかた。	1996年10月	朝日新聞社	監修

14	シリーズ《性を問う》1・原理論	1997年5月	専修大学出版局	長谷川真理子・河田雅圭・大庭健・瀬地山角氏との共著
15	ファッション学のすべて	1998年6月	新書館	監修
16	20世紀を震撼させた100冊	1998年9月	出窓社	野家啓一氏との共編著
17	ワコール50年史——からだ文化	1999年9月	ワコール	深井晃子氏との共監修
18	立ち話風哲学問答	2000年5月	朝日新聞社	多田道太郎・加藤典洋氏との共著
19	所有のエチカ	2000年10月	ナカニシヤ出版	大庭健氏との共編著
20	倫理——自己を見つめて	2002年3月検定	文部科学省検定済教科書高等学校公民科用教育出版	監修
21	九鬼周造の世界	2002年10月15日	ミネルヴァ書房	坂部恵・藤田正勝氏との共編著
22	臨床と言葉 ——心理学と哲学のあわいに探る新しい臨床の知	2003年2月17日	TBS ブリタニカ	河合隼雄氏との共著
23	大人にならずに成熟する法	2003年3月25日	中央公論新社	白幡洋三郎・奥野卓司・小長谷有紀・山極寿一氏との共著 サントリー不易流行研究所編
24	〈食〉は病んでいるか ——揺らぐ生存の条件	2003年5月31日	ウェッジ選書14・JR 東海	編著
25	Talking to Myself	2003年7月7日	YohjiYamamoto Inc.	山本耀司氏との共著
26	表象としての身体	2005年7月15日	大修館書店	叢書《身体と文化》第3巻 野村雅一氏との共編著
27	シリーズ●身体をめぐるレッスン全4巻	2006年11月－ 2007年2月	岩波書店	荻野美穂・石川准・市野川容孝氏との共編著
28	岐路に立つ人文学	2007年1月31日	大阪大学	21世紀COEプログラム《インターフェイスの人文学》報告書・1 責任編集
29	シリーズ●服と社会を考える 第1巻 服と自分 第2巻 服とコミュニケーション 第3巻 服の力	2007年3月15日	岩崎書店	
30	哲学個人授業	2008年2月6日	バジリコ	永江朗氏との共著
31	『実存・構造・他者』	2008年4月25日	中央公論新社	《哲学の歴史》第12巻 責任編集
32	臨床とことば	2010年4月30日	朝日新聞出版	朝日文庫か-23-9 河合隼雄氏との共著、鎌田實氏解説
33	生きるってなんやろか？ 科学者と哲学者が語る、若者のためのクリティカル「人生」シンキング	2011年3月15日	毎日新聞社	石黒浩氏との共著

【外国語著書：単著】

1	梅洛疣蒂——可逆性	2001年11月1日	(『メルロ＝ボン ティ——可逆性』 の中国語訳、対讀 生訳)	河北教育出版社
---	-----------	------------	---	---------

【和文論文：単著】

1	ジェイムズの思想の底を流れるもの——ウィリアム・ジェイムズ論	1976年4月	〈位置〉会	「位置」第1号
2	〈間主観性〉問題について ——現象学的観点から	1977年3月	関西倫理学会	関西倫理学会編 「倫理学研究」第7集
3	超越論的現象学に於ける〈他者〉の問題	1977年3月	〈位置〉会	「位置」第2号
4	真理と現実	1977年11月	理想社	「理想」第534号
5	人格と身体	1979年6月	理想社	「理想」第553号
6	間主観性の現象学（一）	1979年7月	関西大学文学部紀 要	「文學論集」第29巻第 1号
7	間主観性の現象学（二）	1980年2月	関西大学文学部紀 要	「文學論集」第29巻第 3号
8	歴史	1981年3月	勁草書房	有福孝岳・訓覇嘩雄編 『倫理学とはなにか』
9	コミュニケーションと規範——実践を多階的に構造 化しているもの	1981年6月	岩波書店	「思想」第684号
10	科学・イデオロギー・エートス ——思想史研究の意義について	1982年5月	以文社	日本倫理学会編『思想史 の意義と方法』
11	メルロ＝ボンティ——善悪の彼岸	1983年4月	昭和堂	深谷昭三・小熊勢記編 『善の本質と諸相』
12	《一貫した変形》 ——詩的な出来事としての経験	1984年5月	理想社	「理想」第612号
13	身体の現象学 ——〈生命〉論への一視角	1985年5月	玄文社	『〈いのち〉の科学』
14	共存の〈かたち〉とその生成 ——間主観的世界の基礎構造	1985年9月	岩波書店	新岩波講座《哲学》第 10巻・『行為・他我・自 由』
15	見えない日常	1986年10月	関西大学	関西大学哲学会紀要「哲 学」第12号
16	意味と非意味	1987年5月	青土社	「現代思想」vol.15-6
17	現象学と相対主義の問題 ——その予備的考察	1988年11月	日本現象学会	日本現象学会編 「現象学年報」第4号
18	日常の藪のなかで	1988年12月	世界書院	現象学・解釈学研究会編 『現象学と解釈学上』
19	physical consciousness	1989年1月	青土社	「現代思想」vol.16-1
20	メディアと経験	1989年1月	関西大学情報処理 センター	「フォーラム」第3号
21	メディア・身体・経験	1989年4月	培風館	『情報処理論Ⅰ・情報処 理概論』

22	実践哲学のルネッサンス	1989年7月	日本福祉大学	「日本福祉大学・社会科学研究所年報」第4号
23	遠ざかる病い	1989年7月	天理やまと文化会議	「G-Ten」第43号
24	モード、あるいは身体の風景	1989年10月	青土社	「現代思想」vol.17-11
25	〈私〉の匂い	1989年11月	ポーラ文化研究所	「化粧文化」No.21
26	表面のシミュレーション ——流行する身体	1989年12月	流通産業研究所	「RIRI 流通産業」第181号
27	女という迷宮——女はなぜメイクやファッションにのめりこむのか？あるいは、加工され、装飾される女の身体に、男はなぜ誘惑されるのか？	1990年2月	JICC 出版局	別冊宝島107 「女がわからない」
28	三〇年後のメルロ＝ポンティ〔連載〕(1) 伝統の忘却、あるいは忘却としての伝統	1990年4月	みすず書房	「みすず」
29	三〇年後のメルロ＝ポンティ〔連載〕(2) 〈超越論的〉メルロ＝ポンティ？	1990年5月	みすず書房	「みすず」
30	〈純粹〉というレトリック	1990年5月	講談社	「本」1990年5月号
31	三〇年後のメルロ＝ポンティ〔連載〕(3) リヴァーシブルな地形	1990年9月	みすず書房	「みすず」
32	夢みる身体 ——ファッションとシュルレアリスム	1990年9月	大阪ガス・エネルギー・文化研究所	「CEL」VOL.14
33	変換される身体——ファッションとジェンダー・アイデンティティ	1990年10月	世界思想社	原田平作・溝口宏平編 『性のポリフォニー』
34	クリスト——梱包するアーティスト	1990年11月	中央公論社	「マリ・クレール」第96号
35	野性の衣服——三宅一生の仕事 Savage Clothing: The Work of Issey Miyake	1990年11月	広島市現代美術館	三宅一生展カタログ・TEN SEN MEN
36	身体の風景	1990年11月	NTT 出版	奥井一満監修『ディスプレイの情報世界』
37	解釈の多義性と伝統の一貫性 (H.-G. ガダマー)	1990年11月	筑摩書房	坂部恵・加藤尚武編 『命題コレクション——哲学』
38	三〇年後のメルロ＝ポンティ〔連載〕(4) スタイルという概念 (1)	1990年12月	みすず書房	「みすず」
39	〈顔〉の規則	1990年12月	岩波書店	《現代哲学の冒険》10・『交換と所有』
40	三〇年後のメルロ＝ポンティ〔連載〕(5) スタイルという概念 (2)	1991年3月	みすず書房	「みすず」
41	「公民科」という理念について ——哲学の立場から	1991年3月	関西大学	「関西大学教職課程研究センター年報」第5号
42	現代人の自然意識と社会意識 ——いわゆる「清潔症候群」を手がかりとして	1991年3月	富士総合研究所	「今後の農業・農村・食料政策の基礎となるべき日本の国家・社会・経済の進展方向についての調査研究・報告書」
43	神聖な売春——詩人の化粧論のために	1991年4月	青土社	「イマーゴ imago」1991年4月号
44	顔を隠す	1991年7月	青土社	「現代思想」vol.19-7

45	リヴァーシブルな思考 ——メルロ＝ポンティと《現象学》	1991年10月	日本現象学会	『現象学年報・7』
46	モード論のモード	1991年10月	ファッション環境 学会	「ファッション環境」 Vol.1-1
47	プラクシスの問題圏	1991年12月	世界思想社	青木隆嘉・西谷敬・鷺田 清一編『実践哲学の現在』
48	無機物のセックスアピール	1991年12月	青土社	「イマーゴ imago」 1991 年 11 月号
49	〈顔〉の文法〔連載〕(1)〈顔〉の文法	1992年 2 月	メタローグ	季刊「リテレール」 第 3 号
50	モードと身体意識	1992年 2 月	京都女子大学	「京都女子大学被服学雑誌」 Vol.37, No.1
51	「ファッション環境」という概念について	1992年 3 月	ファッション環境 学会	「ファッション環境」 Vol.1-2
52	哲学に《アヴァンギャルド》は存在するか？	1992年 4 月	情況出版社	「情況」1992 年 4 月号
53	記憶の皺 (Deeply wrinkled with memories)	1992年 5 月	ポーラ文化研究所	「化粧文化」第 26 号
54	自動装置——身体機械化	1992年 6 月	リプロボート	今村仁司責任編集『トランスモダンの作法』
55	自律の空間——方法のエチカ	1992年 6 月	リプロボート	今村仁司責任編集『トランスモダンの作法』
56	流通する身体——労働と消費	1992年 6 月	リプロボート	今村仁司責任編集『トランスモダンの作法』
57	〈いま〉の専制——モードの時間	1992年 6 月	リプロボート	今村仁司責任編集『トランスモダンの作法』
58	分身たちの共同体——分割の装置	1992年 7 月	リプロボート	今村仁司責任編集『トランスモダンの作法』
59	感受性の地図——宇宙の解釈術としての身体加工	1992年 9 月	JICC 出版局	別冊宝島 162 「人体改造！」
60	現象学と〈規範〉の問題	1992年10月	慶應通信	日本倫理学会編 『現象学と倫理学』
61	〈喪身〉と〈変身〉——無名性の二つの位相	1992年10月	北斗出版	『増補新版・他者の現象学』
62	身体世紀末——ボディ・モードの現在	1992年10月	社会評論社	「月刊フォーラム」1992 年 10 月号
63	ボディ・シアター——ファッション・プレゼンテーションにおける「場所」	1992年10月	アルク出版企画	「MusicToday」No.17
64	生活世界	1992年12月	世界思想社	丸山高司編『現代哲学を 学ぶ人のために』
65	〈ある〉と〈もつ〉 ——「所有」という観念についての試論	1992年12月	大阪大学文学会	「待兼山論叢」第 26 号
66	隔たり	1992年12月	丸善	「EYES」第 3 号
67	身体の人称／人称の身体 ——制度としての《私の身体》	1993年 1 月	青土社	「現代思想」vol.21-12
68	空虚さの充溢——誘惑するマネキン	1993年 1 月	ベヨトル工房	「夜想」31
69	地平と地盤のあいだ ——〈生活世界〉という概念について	1993年 2 月	岩波書店	岩波講座《現代思想》VI・ 『現象学運動』

70	モードの狡智	1993年2月	ポーラ文化研究所	POLA SEMINARS 5 『顕わすボディ／隠すボディ』
71	〈顔〉の文法〔連載〕(2) 表面が痙攣する	1993年3月	メタローク	第4号
72	モダン、ポストモダン、トランスモダン	1993年5月	社会評論社	「月刊フォーラム」 5月号
73	〈顔〉の文法〔連載〕(3) 転写された皮膚	1993年6月	メタローク	第5号
74	ブラクシスの生成 ——行為の〈テキスト〉モデルをめぐる	1993年7月	世界書院	現象学・解釈学研究会編 『ブラクシスの現象学』
75	〈顔〉の文法〔連載〕(4) 魂の、見えない地図	1993年9月	メタローク	第6号
76	文化の内と外	1993年9月	大阪大学	平成5年度大阪大学放送 講座テキスト 『異文化の交流』
77	所有と固有 ——ジョン・ロックの《所有》論をめぐる(上)	1993年10月	日本バリエール アートセンター	「季刊 iichiko」 No.29autumn1993
78	垂直に下りる ——ダイアン・アーバスと《他者の肖像》	1993年10月	青土社	「ユリイカ」 1993年10月号
79	隠された媒体——欲望の回路	1993年11月	理想社	「理想」第652号
80	〈顔〉の文法〔連載〕(5) 不在と撤退	1993年12月	メタローク	第7号
81	意味による包囲から意味の外部へ——フォーサイ ス、パウシュ、そして三宅一生、川久保玲	1993年12月	新書館	「季刊アート・エクス プレス」No.1
82	スケーマ、あるいは恋愛の標的	1993年12月	青土社	「イマーゴ imago」 1993年12月号
83	総論・「京都らしさ」という像	1993年12月	京都市市政調査研 究会	「京都らしさ」を考える ワーキング・報告書
84	所有と固有 ——ジョン・ロックの《所有》論をめぐる(下)	1994年1月	日本バリエール アートセンター	「季刊 iichiko」 No.30winter1994
85	〈顔〉の文法〔連載〕(6) かぎりなく遠く、かぎり なく近く	1994年3月	メタローク	第8号
86	パニック・ボディ——自分の身体のアブなさ	1994年4月	リプロポート	現代風俗研究会編『現代 風俗'94・アブない人体』
87	〈自分〉をゆるめることのできる服 ——現代制服考	1994年5月	中央公論社	「中央公論」 1994年5月号
88	〈顔〉の文法〔連載〕(7) 見られることの権利	1994年6月	メタローク	第9号
89	〈美〉の技法	1994年7月	日本機械学会	「日本機械学会誌」 Vol.97 / No.908
90	身体のプロプリエテ——P・クロソフスキー『生け る貨幣』のための覚書	1994年7月	青土社	「ユリイカ」 1994年7月号
91	方法の臨界——《純粹》というトポスの不可能性と ハイブリッドな思考の可能性	1994年8月	岩波書店	岩波講座《現代思想》Ⅱ・ 『二〇世紀知識社会の構 図』
92	〈顔〉の文法〔連載〕(8) 見られることの権利承前	1994年9月	メタローク	第10号
93	純粹と不純の彼方	1994年10月	TBS プリタニカ	「アステイオン」 1994年秋号
94	マネキンの誘惑	1994年10月	武庫川学院	「武庫川女子大学生生活美 学研究所紀要」第4号

95	衣服への問い	1994年10月	日本女子社会教育 会・家庭科学研 究所	「家庭科学」 第 61 巻第 2 号
96	〈顔〉の文法〔連載〕(9) 顔はだれのものか?	1994年12月	メタローク	第 11 号
97	デザインされる肉体 ——スポーツ・ボディモード・コスチューム	1995年 1 月	新書館	「大航海」第 2 号
98	〈わたし〉は誰のもの? ——臓器移植、知的所有、レンタルシヨップ	1995年 2 月	読売新聞社	「Thisis 読売」 1995 年 2 月号
99	阪神間——モダン都市のゆくえ	1995年 4 月	産経新聞社	「正論」1995 年 4 月号
100	いれずみ——プリンティングの美学——面（サーフ フェイス）のコミュニケーション	1995年 4 月	繊維学会	「繊維学会誌」 第 51 巻 4 号
101	二十世紀のファッションにおける身体の変容	1995年 6 月	日本ファッション 協会	第 3 期ファッション研究 助成成果報告書
102	目で触れる——メルロ＝ポンティの欄外に	1995年 7 月	思潮社	「現代詩手帖」 1995 年 7 月号
103	衣服という皮膚	1995年 8 月	愛知芸術文化セン ター	萩原朔美監修 『うつしとられた身体』
104	戦後社会における身体の変容	1995年 8 月	大阪大学	『第 27 回大阪大学公開 講座：国際化の時代と大 阪／戦後 50 年と日本／ 生命と環境』
105	他なるものの時間	1995年 9 月	以文社	竹市明弘・金田晉編『久 野昭教授還暦記念哲学論 文集』
106	述語的なものの創出——Between Art and Craft	1995年 9 月	東京テキスタイル 研究所	「工芸」第 2 号
107	顔にふれる——〈顔〉という現象	1995年11月	ポーラ文化研究所	「化粧文化」第 33 号
108	垂直のファッション、水平のファッション	1996年 1 月	岩波書店	岩波講座《現代社会学》 21・『デザイン・モード・ ファッション』
109	私的なものの場所——《日本の不安》	1996年 1 月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 No.39・1996 年冬号
110	同時性という感覚——上海／都市の様態	1996年 1 月	国際交流基金	「国際交流」第 70 号
111	都市のテクスチュア——都市空間のなかの身体	1996年 2 月	日本放送出版協会	サントリー不易流行研究 所編『都市のたくらみ・ 都市の愉しみ』NHKブ ックス 759
112	フロイト——意識のブラックホール	1996年 5 月	講談社	『現代思想の冒険者た ち』第 0 巻
113	性の裳——セクシュアリティの表象	1996年 5 月	青土社	「イマーゴ」 1995 年 5 月号
114	哲学の場所——大学における哲学の存在理由	1996年 6 月	関西哲学会	「アルケー」No.4
115	モード、モダンのもう一つの形象	1996年 6 月	新書館	「大航海」第 10 号
116	言葉のきめ	1996年 6 月	青土社	「ユリイカ」 1996 年 6 月号
117	からだの艶、からだの鍍光り	1996年 7 月	中央公論社	「婦人公論」 1996 年 7 月号

118	臨床哲学の試み——The Philosopher Goes to Town	1996年 7月	日本バリエール アートセンター	「季刊 iichiko」 No.40, 1996 夏号
119	感覚の技法——メディアと身体	1996年 9月	朝倉書店	《文明と環境》第 13 巻・ 『新しい文明の創造』
120	生の交換、死の交換	1996年 9月	哲学書房	講座《生命》1
121	装うことの意味——ダンスとモード	1996年10月	舞踊学会	「舞踊学」第 19 号
122	聴くことの力——臨床哲学試論連載（1）〈試み〉と としての哲学	1997年 1月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.43 1997 年冬号
123	〈わたし〉というトポス	1997年 3月	情況出版	「情況」1997 年 3 月号
124	哲学にとって臨床性とは何か——倫理学的考察	1997年 3月	大阪大学倫理学研 究室・臨床哲学研 究会	「臨床哲学ニューズレ ター」創刊号
125	臨床哲学事始め	1997年 3月	大阪大学倫理学研 究室・臨床哲学研 究会	「臨床哲学ニューズレ ター」創刊号
126	文化としてのきものが見えない	1997年 3月	京都市産業観光局 商工部伝統産業課	京都市きもの意識調査報 告書「きものは mode か？」
127	聴くことの力——臨床哲学試論連載（2）だれの前で、 という問題	1997年 4月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.44 1997 年春号
128	Open All Hours	1997年 6月	「Look Japan」 Vol.43, No.495	【Today's Manager, 2000, Singapore Inst. of Management に再録】 【『ルック・ジャパン』 で楽しく読める時事英 語』, 2002.4, 松柏社に再 録】
129	聴くことの力——臨床哲学試論連載（3） 遇うという こと	1997年 7月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.45 1997 年夏号
130	〈ゆるみ〉と〈すきま〉	1997年 7月	岩波書店	講座《現代日本文化論》 10・河合隼雄／山田太一 『夢と遊び』
131	コスメティックとコスミック	1997年 9月	コスメトロジー研 究振興財団	『コスメトロジー研究報 告』 vol.5
132	聴くことの力 ——臨床哲学試論連載（4） 迎え入れるということ	1997年10月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.46 1997 年秋号
133	他者という形象——《ヘテロロジー》素描	1997年10月	日本実存思想協会	実存思想論集 12・『他者』
134	〈顔〉という現象——似顔絵が描きだすもの	1997年11月	ポーラ文化研究所	「化粧文化」No.37
135	聴くことの力 ——臨床哲学試論連載（5） 苦痛の苦痛	1998年 1月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.47 1998 年冬号
136	身体はだれのものか	1998年 1月	法蔵館	「仏教」No.42
137	内破するモード	1998年 3月	トレヴィル	巽孝之監修『身体の未来』
138	聴くことの力 ——臨床哲学試論連載（6）〈ふれる〉と〈さわる〉	1998年 4月	TBS ブリタニカ	「アステイオン」 NO.48 1998 年春号
139	肯定の停止 ——〈人間〉という最上級の共同体をめぐる	1998年 4月	法政大学出版局	日本哲学会編「哲学」 第 49 号

140	布と身体 1998 年 4 月『染色演習・[染]』京都造形芸術大学	1998 年 4 月	角川書店	京都造形芸術大学編・美と創作シリーズ『染を学ぶ』
141	時が去りゆく、物が消える ——現代の奇妙な喪失感情について	1998 年 5 月	中央公論社	「中央公論」 1998 年 5 月号
142	思想の言葉——哲学の改革？	1998 年 5 月	岩波書店	「思想」1998 年 5 月号
143	顔と仮面とヌード	1998 年 5 月	ポーラ文化研究所	「化粧文化」 No.38 新創刊
144	聴くことの力 ——臨床哲学試論連載（7）享けるということ	1998 年 7 月	TBS プリタニカ	「アステイオン」 NO.49 1998 年夏号
145	インダストリーの精神と真空恐怖	1998 年 8 月	日文研叢書 16 / 国際日本文化研究センター	S. リンハルト・井上章一 編『日本人の労働と遊び ——歴史と現在』
146	聴くことの力 ——臨床哲学試論連載（8）ホモ・パティエンス	1998 年 10 月	TBS プリタニカ	「アステイオン」 NO.49 1998 年夏号
147	哲学と言葉	1998 年 10 月	人文会	人文会創立 30 周年記念 出版『人文書のすすめⅡ』
148	臨床哲学事始め	1998 年 10 月	兵庫県立教育研修 所	「兵庫教育」 1998 年 10 月号
149	自己／他者を読み解く 10 冊	1998 年 11 月	朝日新聞社	「論座」1998 年 11 月号
150	いのちのはずみ	1998 年 12 月	哲学書房	講座《生命》3
151	〈顔〉の触感	1998 年 12 月	大修館書店	「言語」1998 年 12 月号
152	見えない死、隠される生——いのちへの視点	1998 年 12 月	日本新聞協会	「新聞研究」 1998 年 12 月号
153	Japanese Fiction ——Literature Amid Discommunication	1999 年 2 月	Committee on Intellectual correspondence	NEWSLETTER, Issue No.3
154	物語と同一性	1999 年 3 月	日本教育学会	「教育学研究」 第 66 巻 1 号
155	垂直のコスメティック	1999 年 4 月	角川書店	『失われた身体を求めて ——現代芸術演習』京都 造形芸術大学通信教育部
156	無機物のセックスアピール	1999 年 4 月	角川書店	『失われた身体を求めて ——現代芸術演習』京都 造形芸術大学通信教育部
157	反転する内と外	1999 年 4 月	角川書店	『失われた身体を求めて ——現代芸術演習』京都 造形芸術大学通信教育部
158	包む——服飾	1999 年 4 月	光文館	『テキスト生活美学』
159	酒の文化、酒場の文化	1999 年 4 月	中央公論新社	サントリー不易流行研究 所編『酒の文明学』
160	「寂しい」時代——伝達不能と無重力のはざま	1999 年 4 月	TBS プリタニカ	国際知的交流委員会日本 委員会編「アステイオン」 第 51 号
161	哲学とその〈外部〉——哲学の文体をめぐって	1999 年 7 月	ミネルヴァ書房	叢書《転換期のフィロソ フィー》第 1 巻『哲学 ——知の新たな展開』

162	危機と批判 ——二十世紀の文明批評とその時間意識	1999年10月	和泉書院	懷徳堂記念会編『批評の現在』懷徳堂ライブラリー・2
163	理論と実践——あるいは、見ることと行なうこと	1999年11月	ナカニシヤ出版	有福孝岳編『エチカとは何か——現代倫理学入門』
164	洋装下着の受容と身体感情の変容	2000年3月	岩波書店	講座《近代日本文化論》第3巻『ハイカルチャー』
165	わざ・身体・メディア	2000年3月	国際高等研究所	Report1999-04『わざ学』
166	都市のビジョン ——「京都市基本構想」(案)ができるまで	2000年3月	京都市総合企画局	「都市研究・京都」第12号
167	わくらばに——宗教的なものと偶然性の感情	2000年5月	TBSブリタニカ	「アステイオン」第53号
168	アイデンティティ——同一性の場所	2000年6月	INAX出版	水野誠一監修『20-21世紀 DESIGNINDEX』
169	所有と固有——propriété という概念をめぐる	2000年7月	ナカニシヤ出版	大庭健・鷺田清一編『所有のエチカ』
170	〈憶え〉の場所	2000年7月	京都市芸術センター	「ダイアテキスト01」創刊号
171	感覚の幽い風景(1) どんな感覚も夢や離人症の萌芽をふくんでいる。	2000年7月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.13 / 2000年夏号
172	About Face	2000年9月	(ed. by Lynn Gumpert, Grey Art Gallery, New York University)	FACE TO FACE, Shiseido and the Manufacture of Beauty 1900-2000
173	感覚の幽い風景(2) きず	2000年10月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.14 / 2000年秋号
174	幸福と所有——消えた二つの主題	2001年1月	岩波書店	講座《世界歴史》28『普遍と多様』
175	感覚の幽い風景(3) 聲	2001年1月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.15 / 2001年冬号
176	〈本〉という物、〈本〉の時間	2001年4月	筑摩書房	「季刊・本とコンピュータ」第16号
177	感覚の幽い風景(4) ふるえ	2001年4月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.16 / 2001年春号
178	感覚の幽い風景(5) まさぐり	2001年7月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.17 / 2001年夏号
179	老いの時間	2001年8月	河合文化教育研究所	講座《生命》5
180	感覚の幽い風景(6) 食う	2001年10月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.18 / 2001年秋号
181	全体という擬制——〈国家〉の存在をめぐる	2001年11月	TBSブリタニカ	「アステイオン」第56号
182	時評 2002(1) ひとはどういう場所からテロと狂牛病を語るのか?	2002年1月	中央公論新社	「中央公論」2002年1月号
183	感覚の幽い風景(7) へり	2002年1月	紀伊国屋書店	「I Feel」No.19 / 2002年冬号

184	時評 2002 (2) 孤立させられる「痛み」	2002年 2月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 2 月号
185	ケアという関係	2002年 3月	メヂカルフレンド社	「看護展望」 2002 年 3 月号
186	時評 2002 (3) だれもが残酷になれるメディア	2002年 3月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 3 月号
187	意識の皮膚	2002年 4月	成美弘至責任編集、角川書店	京都造形芸術大学編 『身体モード論』
188	時評 2002 (4) 病気になって楽になるというビューキ	2002年 4月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 4 月号
189	感覚の幽い風景 (8) 艶	2002年 4月	紀伊国屋書店	「I Feel」 No.20 / 2002 年春号
190	時評 2002 (5) 置き去りにされる生命倫理	2002年 5月	中央公論新社	「中央公論」2002 年 5 月号 【『越洋聚焦——日本論壇』、在中国日本大使館、2002 年 7 月に翻訳・転載】
191	食のほころび ——あるいは、食えることと食べさせてもらうこと	2002年 6月	大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室	「臨床哲学」第 4 号
192	時評 2002 (6) 「キャラ」で成り立つ寂しい関係	2002年 6月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 6 月号
193	〈内〉の現象学 ——構えについてのささやかな試論	2002年 7月	青土社	『媒体性の現象学』
194	過去、女、空しさ (Past, Femininity and Instability)	2002年 7月	Yohji Yamamoto Inc	TLKING TO MYSELF
195	「つながり」と「ぬくもり」	2002年 7月	草土文化	日本子どもを守会編『子ども白書』2002 年度版
196	時評 2002 (7) 大人になるのが困難な社会	2002年 7月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 7 月号
197	時評 2002 (8) ルールはルール、という「あたりまえ」	2002年 8月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 8 月号
198	時評 2002 (9) 大学に押し寄せる「改革」の波	2002年 9月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 9 月号
199	思考の調性について——九鬼周造の「哲学的図案」	2002年10月	ミネルヴァ書房	坂部恵・藤田正勝・鷺田清一編『九鬼周造の世界』
200	時評 2002 (10) 〈老い〉はほんとうに「問題」なのか	2002年10月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 10 月号
201	時評 2002 (11) 「正しい体」と「正しい声」の危うさ	2002年11月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 11 月号
202	時評 2002 (12) いま、〈知〉の光景が問いかけるもの	2002年12月	中央公論新社	「中央公論」 2002 年 12 月号
203	語りについて——臨床と言葉・1	2003年 3月	TBS ブリタニカ	河合隼雄・鷺田清一『臨床とことば——心理学と哲学のあわいに探る新しい臨床の知』
204	声について——臨床と言葉・2	2003年 3月	TBS ブリタニカ	河合隼雄・鷺田清一『臨床とことば——心理学と哲学のあわいに探る新しい臨床の知』

205	流行	2003年 3月	放送大学教育振興会	中島義明・太田裕彦編『人間科学の可能性』
206	冒険——きしみあう知 ——インターフェイスの人文学へようこそ	2003年 3月	大阪大学大学院文学研究科	「大阪大学大学院文学研究科紹介」"Interface Humanities" Vol.01
207	強い「自立」よりも弱い「相互依存」を	2003年 4月	中央公論新社	「中央公論」2003年 4月号
208	《インターフェイスの人文学》というプロジェクト——科学の専門性と現場性	2003年12月	大阪大学文学部	大阪大学 21 世紀 COE プログラム《インターフェイスの人文学》報告書 01
209	ヘーゲルとフランス実存主義	2004年 3月	講談社	今村仁司・座小田豊編『知の教科書●ヘーゲル』
210	法の声、声の法	2004年 3月	日本法社会学会	「法社会学」第 60 号（14-23）
211	働くことの意味？	2004年 4月	関西倫理学会	「倫理学研究」第 34 号
212	身体クライシス	2005年 1月	新書館	「大航海」No.53
213	〈健康〉と現代社会	2005年 2月	日本理学療法学会	「理学療法学」第 32 巻第 1 号
214	日本、もうひとつの顔	2005年 2月	大阪大学 21 世紀 COE プログラム	『日本、もうひとつの顔』（＜インターフェイスの人文学＞報告書
215	表象としての身体 ——身体イメージとその演出 見えない衣—— 下着という装置、マネキンという形象	2005年 7月	大修館書店	叢書＜身体と文化＞3・『表象としての身体』
216	社会学連携の新しいかたち ——大阪大学 CSCD の実験	2005年12月	政策科学研究所	21 世紀フォーラム
217	〈老い〉はまだ空白のままである	2006年 1月	中央公論新社	「中央公論」2006年 1月号
218	(1) イメージと表面 (2) モード化される身体	2006年 3月	放送大学教育振興会	徳丸吉彦・青山昌文編『芸術・文化・社会』
219	身体という幻 〈顔〉、この所有しえないもの	2006年11月	岩波書店	鷺田清一編『夢みる身体』（身体をめぐるレッスン・1）
220	岐路に立つ人文学 ——＜インターフェイスの人文学＞がめざすもの	2007年 1月	大阪大学 21 世紀 COE プログラム	『岐路に立つ人文学』（＜インターフェイスの人文学＞報告書・1）
221	思想の言葉●メルロ＝ポンティの身ぶり	2008年11月	岩波書店	「思想」No.1015 / 2008年 11月号
222	人間性と動物性	2009年 4月	岩波書店	奥野卓司・秋篠宮仁編『動物観と表象』（＜ヒトと動物の関係学＞第 1 巻）
223	哲学のプラクティス	2009年 7月	岩波書店	『変貌する哲学』（岩波講座＜哲学＞第 15 巻）
224	落としどころについて ——河合隼雄における〈臨床〉と〈対話〉	2009年10月	岩波書店	中沢新一・河合俊雄編『思想家 河合隼雄』
225	市民が「市民」になるとき 「市民」の概念をめぐる試論	2010年 5月	阪急コミュニケーションズ	「アステイオン」No.72
226	終わりのなき途上で 臨床哲学という試み	2010年 9月	大阪大学出版会	本間直樹・中岡成文編『ドキュメント臨床哲学』

227	知性のジムナスティックス ——大学における教養教育をめぐって	2011年1月	IDE 大学協会	『IDE 現代の高等教育』 2011年1月号
228	批評と臨床 人文学と社会との距離について	2011年2月	人間文化研究機構	「HUMAN」創刊号
229	〈代弁〉という仕事	2011年4月	岩波書店	「科学」2011年4月号
230	見えないもの、そして見えているのにだれも見えていないもの	2011年7月	岩波書店	「科学」2011年7月号
231	トランスサイエンス時代の科学者の責任	2011年11月	岩波書店	「科学」2011年11月号
232	「大学の社会的責任」のもう一つの果たし方	2008年1月	IDE 大学協会	「IDE——現代の高等教育」 2008年1月号

【外国語論文】

番号	論文名	発行年	発行所	備考
1	Phänomenologie und Sozialwissenschaften in Japan	1983年11月	Wilhelm Fink (München)	B.Waldenfels/R.Grathof (Hrsg.), Sozialität und Intersubjektivität
2	Handlung,Leib,Institution:Perspektiven einer phänomenologischen Handlungstheorie	1984年11月	Karl Alber (Freiburg)	JAPANISCHE BEITRÄGE ZUR PHÄNOMENOLOGIE
3	Who Owns Me? :Possessing the Body or Current Theories of Ownership	1995年7月	Iichiko intercultural	Edition iichiko,No.7
4	Open All Hours	1997年6月	Look Japan	Look Japan, Vol.43, No.495
5	Japanese Fiction —— Literature amid Dyscommunication	1999年2月	Committee on Intellectual correspondence	NEWSLETTER, IssueNo.3
6	About Face	2000年9月	ed.byLynnGumpert, GreyArtGallery, NewYork University	FACE TO FACE, Shiseido and the Manufacture of Beauty 1900-2000
7	Le passé,le feminine,le vain (Past,Feminity,and Instability)	juillet 2002	YohjiYamamoto Inc.	TALKING TO MYSELF
8	Senior Care Is Not a "Problem"	2006年6月	Japan Echo	JAPAN ECHO, vol.33, No.2, april 2006
9	Cuidar a los mayores no es un problema	2006年7月	Inter-Edit, Cirlulo Internacional de Editores	GUADERNOS DE JAPON, Volumen XIX, numero 2
10	The Art of Passivity:Introducing my books <i>The Power of 'Listening' and Waiting</i>	2010年3月	日本倫理学会	translated by Judy Wakabayashi, Special Issue of the Annals of Ethics 2009
11	Collapse	2010年3月	The Executive Committee of the Shizuoka International Translation Competition	translated by Blake M. Baguley, The 7th Shizuoka International Translation Competition Winning Translations

【和訳著書：単著】

1	M. トイニッセン 「他者——フッサールの相互主観性理論のめざすもの」 Michael Theunissen, Das Ziel der transzendentalen Intersubjektivitätstheorie Husserls, in: DER ANDERE	1978年11月	晃洋書房	〔訳書〕新田義弘・小川侃編『現象学の根本問題』
2	B・ヴァルデンフェルス 「閉じられた本質認識と開かれた経験」 Bernhard Waldenfels, Abgeschlossene Wesenserkenntnis und offene Erfahrung	1978年11月	晃洋書房	〔訳書〕新田義弘・小川侃編『現象学の根本問題』
3	F・カウルバッハ 『倫理学とメタ倫理学』〔第4章の翻訳ならびに全体の解説〕 Friedlich Kaulbach, ETHIK UND METAETHIK	1980年4月	晃洋書房	〔訳書〕A・バルツィイ他『倫理学の根本問題』
4	P. リクール 「遡行的問いと理念性——フッサールの『危機』とマルクスの『ドイツ・イデオロギー』」 Paul Ricoeur, Le "Questionnement rebours" (die Rückfrage) et la réduction des idéités dans la KRISIS de Husserl et l'IDÉOLOGIE ALLEMANDE de Marx	1982年8月	白水社	〔訳書〕B・ヴァルデンフェルス他編『現象学とマルクス主義』
5	B・ヴァルデンフェルス 「開かれた弁証法の可能性」 Bernhard Waldenfels, Möglichkeiten einer offenen Dialektik	1982年9月	白水社	〔訳書〕B・ヴァルデンフェルス他編『現象学とマルクス主義』
6	H. シュミッツ 「身体とコミュニケーション——二つの講演」 Hermann Schmitz, Leib und Kommunikation	1986年9月	産業図書	〔訳書〕H・シュミッツ『身体と感情の現象学』／〔水谷雅彦・石田三千雄氏との共訳〕
7	B・ヴァルデンフェルス 「実践の倫理的な次元とプラグマティックな次元」 Bernhard Waldenfels, Ethische und pragmatische Dimension der Praxis	1987年4月	白水社	〔訳書〕B・ヴァルデンフェルス『行動の空間』
8	B・ヴァルデンフェルス 「意味の無底性——フッサールの〈基礎づけ〉の理念に対する批判」 Bernhard Waldenfels, Die Abgründigkeit des Sinnes. Kritik an Husserls Idee der Grundlegung	1987年4月	白水社	〔訳書〕B・ヴァルデンフェルス『行動の空間』
9	B・ヴァルデンフェルス 「生活世界日常的なものと非日常的なもの」 Bernhard Waldenfels, Lebenswelt zwischen Alltäglichem und Unalltäglichem	1988年1月	関西大学文学部紀要	〔訳書〕『文学論集』第37巻第1号
10	R・マーティン 『ファッションとシュルレアリスム』 Richard Martin, FASHION AND SURREALISM	1991年3月	Edition Wacoal	〔訳書〕
11	R・シュテッカー 「服が人を作る」 Kleider machen Leute	1991年4月	J・ガイスマル展 ClothesMakePeople カタログ	〔訳書〕
12	H・L・ドレイファス／P・ラビノウ 『ミシェル・フーコー——構造主義と解釈学を超えて』 Hubert L. Dreyfus/Paul Rabinow, MICHEL FOUCAULT. BEYOND STRUCTURALISM AND HERMENEUTICS	1996年7月	筑摩書房	〔監訳〕 HERMENEUTICS

【共訳】

- | | | | | |
|---|--|----------|------|-------------------------------|
| 1 | U・クレスゲス「フッサールの〈生活世界〉概念に含まれる二義性」
Ulrich Claesges, Zweideutigkeiten in Husserls Lebensweltbegriff | 1978年11月 | 晃洋書房 | 〔魚住洋一氏と共訳〕新田義弘・小川侃編『現象学の根本問題』 |
| 2 | H.L. ドレイラス／P. ラビノウ
「成熟とはなにか——「啓蒙とはなにか」をめぐるハーバーマスとフーコー」
Hubert L. Dreyfus/Paul Rabinow, What Is Maturity? Habermas and Foucault on "What Is Enlightenment?" | 1987年3月 | 青土社 | 〔中垣晃一氏と共訳〕「現代思想」vol.15-3 |
| 3 | E・ルモワースールッチオーニ『衣服の精神分析』
E.Lemoine-Luccioni, LA ROBE. ESSAI PSYCHANALYTIQUE SUR LE VÊTEMENT | 1993年5月 | 産業図書 | 〔柏木治氏との共訳〕 |
| 4 | D・ジュリア『ラールス哲学事典』
Didier Julia, Dictionnaire de la philosophie | 1998年9月 | 弘文堂 | 〔片山寿昭・山形頼洋氏との共同監訳〕 |